

広報誌

つくし

発行日 2023年5月31日発行

第48号

目次

南国病院に赴任して	2
第25回 高知県精神科総合研究会	3
第12回 看護部チーム会活動の振り返り	3
第10回 開院記念院内発表会	4
認知行動療法の導入について	6
オンラインだよ！文化交流会2022に参加しました！	6
コロナ禍を経ての精神科デイケアの活動	7
新人集合研修会	7
新たなスタート	9
診療のご案内	12

新型コロナウイルス感染症防止のための面会制限措置に付きまして、患者様、家族様の多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございます。令和5年5月8日より、新型コロナウイルス対策において感染対策の見直しが必要ですが、当院では引き続き、条件付きでの対面面会とさせていただきます。対面面会、リモート面会共に、予約制にて行いますので、ご希望の方は受付にお申し込みください。

令和5年度を迎えて



医療法人つくし会 理事長
南国病院 院長 中澤 宏之

令和5年度は、院内外において例年以上に大きな節目となりました。5月8日以降は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の位置づけとして季節性インフルエンザと同等の5類となります。公的な補助が段階的に少なくなりますが、コロナ診療の格差がなくなり、少なくともインフルエンザを診療している全ての医療機関がコロナ診療に参加できる状況になることを祈るばかりです。当院はこれまで同様の感染対策を継続し、発熱外来や入院対応を行ってまいります。

3年間の移行措置を設置し令和2年度から準備を行ってきた役職定年制度を令和5年度から導入します。次世代の人材が昇格し幹部職員として活躍してもらうことが趣旨であり4月から新たな体制で臨むことにご理解を頂きたいと思います。一般職の定年はこれまでと変わりありませんが、今後の高齢者雇用の流れを考慮して更なる延長を検討していきます。これまで当法人に大きな貢献をして下さり5年3月までで交代となった幹部職員には改めてお礼を申し上げます。またこの1年間で16名の新規採用者を迎えることができました。当法人を選んで下さり感謝すると同時に、当法人の人事ポリシーである患者ファースト、謙虚な心構え、自己研鑽、専門医療、多職種協働を目指して活躍して頂きたいと思います。

この4月で当院は開院54周年を迎えました。54年間という長い間病院を継続、発展できたのはこれまで勤めて頂いた職員の皆様、地域や関係機関の皆様の御陰と深く感謝しております。4月19日には開院記念院内発表会を開催しました。日頃聞くことのできない他部署の取り組みや研究内容を発表、聴講し意見交換を行うことで、院内連携の促進につなげたいという思いで平成23年度より始めたもので、今年で10回目を迎えました。今年も各部署から有意義な発表があり、開院記念行事として定着したことを嬉しく思いました。

令和5年度は、神経難病医療の質の向上、精神科医療の専門性強化、消化器内科の検査体制充実、在宅医療部門(精神科デイケア、通所リハ、訪問看護)の利用者増加を目標に掲げ、職員一同取り組んでまいります。最後になりましたが、令和5年度が皆様にとって充実した一年となることをお祈りいたします。

南国病院に赴任して



脳神経内科顧問 古谷 博和

昨年12月から非常勤、今年の4月から常勤で脳神経内科に勤務しています古谷です。私は高知に来る前は福岡の国立病院機構大牟田病院に9年間勤務しており、そこでは脳神経内科領域の

難病の患者さんや筋ジストロフィーの患者さんを多く担当してきましたから、何となく懐かしい病院に戻ってきたような感じがしています。

私は九州生まれで九州育ち、アメリカに留学した3年間以外、住民票を九州から移したことが無く、高知の有名人といえば司馬遼太郎氏を書いてくれた坂本龍馬や長曾我部元親、山内一豊に山内容堂、および、昔々あった100円札に刷られていた板垣退助、物理学者として尊敬出来る寺田寅彦、植物学者として有名な牧野富太郎くらいしか思い出せる人がいませんでした。また大学に赴任するまで学会や観光旅行も含めて一度も当地を訪れたことがありませんでした。赴任した当初は道端に外国人のお遍路さんが歩いているのを見て仰天して回到りにそのことを吹聴して回っても、皆から「それが何か」という顔つきで見られてこちらが当惑したり、逆にこちらが高知の殆どのお墓が南、すなわち海側を向いている事に気がついた事を語ると、「他の地域もみんなそうではないのですか？」と驚かれたりと、まさに毎日がテレビ番組の「県民ショー」を見ているようで、私にとってはいつまでも高知はワンダーランドです。

しかしながら脳神経内科医として土佐の医療を見ると、実にお寒い限りで、高知市と南国市を除く他の地域に殆ど脳神経内科専門医はおらず、初めて診療に行った安芸地域で重症パーキンソン病患者さんの筋固縮に対して(抗パーキンソン病薬でなく)ボトックス治療が行われているのを目の当たりにするなど、驚いてばかりもいられない現状が待っていました。

神経難病の患者さんは病気でつらい目にあっているのに、そ

れに加えて患者さんのご家族にかかる負担も大きく、そのために家庭が崩壊してしまう方もいらして、まさに治療(Cure)できない難病の患者さんにはケア(Care)を行わなければなりません。しかしケアするためには脳神経内科医だけでなく、難病に精通した看護師、理学療法士、訪問看護師、さらには地域連携の担当者など裾野の広いマンパワーが必要です。本来ならば難病に関しては国立病院機構などの半分国の機関が介入しなければシステムの構築は難しいのですが、高知県では系統的にこのような事をやっているのは当院だけだと思います。長期療養型の民間の病院で採算をとりながら難病診療を進めていくのは言うは易く行うは難しく、経営陣の方々も相当に苦勞しておられるでしょうが、まず採算が出ないことには難病患者さんのケアが出来ない事も重要な事実です。一方大学病院は急性期の高額医療を含む最先端の診療を行う事が目標となっていますから、難病の患者さんの診療をずっと続けることはなかなか難しいです。そういった点で信頼出来る長期療養型の病院が比較的近くの便利なところにあることは、大学病院で診療を続ける先生方にとっても(精神的に)重要なことなのです。

幸い大学病院では脳神経内科が単独診療科として独立させていただき、新教授の下で少しずつ若い優秀な先生方が増えてきておられますので、これからも大学と連携しながらお互いの不備な点を補って行くようにすることが重要で、そのためのお役に少しでも立つことが出来れば幸いだと思っています。

まだまだ不慣れな事も多くありますが、今後ともよろしくお願い致します。

第25回 高知県精神科総合研究会

2023.3.10(金)

高知会館

「精神科における個性性を重視した排便コントロール方法の見直し～患者のQOL向上を目指して～」

5病棟看護師 坂本 麻樹

中国・四国精神保健学会に続いて令和5年3月17日に開催された「第25回高知県精神科総合研究会」に参加してきました。今回もハイブリッド形式での開催でしたが現地参加し、5病棟で取り組んだ「精神科における個性性を重視した排便コントロール方法の見直し～患者のQOL向上を目指して～」についての研究発表を行いました。

田中氏が演者として発表し、私は共同演者として参加しました。こちらへ伝わってくるほどの緊張感でしたが、発表後は緊張の糸が解け安堵しました。

質疑応答では研究に取り組んだ理由、排便コントロール方法

の内容の詳細、スタッフへ教育の際苦労した事などいくつも質問をいただきました。他院でも排便コントロールについて課題があるようで情報共有ができて良かったです。

他院での演題で、OT活動以外で看護師が主体となり患者の生活作業能力に応じた日中活動を導入しており、とても素晴らしい取り組みだと思いました。

今回の看護研究は排便コントロールに焦点を当てていますが、当院の看護理念である【患者ファースト】を目指して今後も日々の業務に取り組んでいきたいと思います。

看護研究の機会を与えてくれた師長さん、快く協力してくれたスタッフの皆さんに感謝します。

第12回 看護部チーム会活動の振り返り

2023.3.2(木)

在宅医療支援センター・センターホール



5病棟看護師長 大崎 浩徳

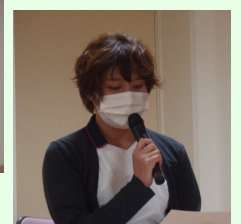
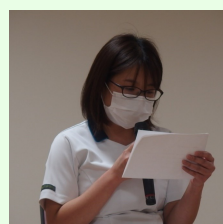
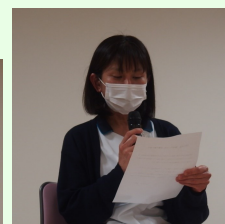
今年3月に12回目となる「看護部チーム会活動の振り返り」が開催されました。それぞれのチーム会が、課題や目標を設定し、1年間にわたり試行錯誤しながら取り組んだ経過と成果の発表でした。

今期のチーム会は機能評価後のマニュアルの改善と修正に加え、新型コロナウイルス感染症の対応と大変な年度であったと思います。前年度から行われていた感染症対策PPE着脱演習や手洗い実施の活動は、院内クラスターを乗り切る礎になっていたと思います。

また、これまでチーム会運営に柱となる人力の退職といった南国病院にとっても大きな節目になる年でもありました。新しく管理職の体制になりましたが、今後も患者ファーストで安全安楽な看護を提供できるように多職種の協力を得ながらチーム

ワークの良い活動をしていきたいと思っています。

本年度は引き続き、患者ファーストに視点を置いた看護展開の議論に加え、コスト削減や業務改善も議論や改善が行われるように活動していきたいと思っています。ご協力よろしくお願いします。



第10回 開院記念院内発表会

2023.4.19(水)

在宅医療支援センター・センターホール

精神科における 個別性を重視した 排便コントロール方法の見直し ～患者のQOL向上を目指して～

5病棟看護師 坂本 麻樹

【抄録より】

精神科患者は向精神薬の副作用や、入院生活による活動性低下、精神症状による食事摂取量の低下などから便秘になりやすく、排便を促すために定期的



に下剤を服用しているケースが多い。当病棟では入院中患者の83%が下剤を服用し、排便が2日なければ下剤、翌日浣腸・座薬の追加投与という個別性のない排便ケアがルーティン化していた。浣腸による頻回な排便や下痢は患者に苦痛や不快感を与え、患者のQOLの低下をまねく。今回患者の排便状況をモニタリングし、患者の個別性を重視した排便コントロール方法を見直す事で患者の苦痛を減らしQOLの向上につなげることができるのではないかと考えた。モニタリング結果から排便コントロール方法を見直した結果を報告する。

りやすく、排便を促すために定期的に下剤を服用しているケースが多い。当病棟では入院中患者の83%が下剤を服用し、排便が2日なければ下剤、翌日浣腸・座薬の追加投与という個別性のない排便ケアがルーティン化していた。浣腸による頻回な排便や下痢は患者に苦痛や不快感を与え、患者のQOLの低下をまねく。今回患者の排便状況をモニタリングし、患者の個別性を重視した排便コントロール方法を見直す事で患者の苦痛を減らしQOLの向上につなげることができるのではないかと考えた。モニタリング結果から排便コントロール方法を見直した結果を報告する。

外来における 心理面接

診療支援部 医療技術課
臨床心理室 横山 望

【抄録より】

当院の臨床心理室は2005年に開設され、現在は心理士2名が在席し、日々の業務に取り組んでいます。臨床心理室の業務を大まかに分けると、心理検査、心理面接、臨床心理的地域援助の3つに分類できます。3つめの臨床心理的地域援助とは、検査や面接等を行う中で、必要に応じて社会資源の活用を促したり、ご本人の許可を得た上で、関係機関やご家族に情報提供したりすることで、患者様の環境面への働きかけを行うものです。いずれの業務も、臨床心理室だけで取り組む事は困難であり、他職種の協力や援助、理解によって支えられ成り立っています。

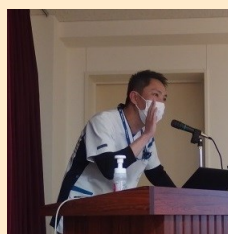
こうした業務の中で、特に心理面接は、個別的な支援であることや守秘義務の影響を強く受けていること等から、実態が見えづらく、他職種にとっても把握しづらい業務の一つとなっているのではないかと感じています。そんな心理面接について、少しでも皆様に知っていただき「ああ！心理面接って、こんな感じなのね」と思っていただけのような、ご報告ができればと考えています。

インシデントレポート

医療安全対策室 石谷 豪

【抄録より】

一般的に「インシデント」とは事故などの危難(命にかかわるような災難)が発生するおそれのある状態と略される。医療現場



では”日常診療の場で、誤った医療行為などが患者に実施される前に発見されたもの、あるいは誤った医療行為などが実施されたが、結果として患者に影響を及ぼすに至らなかったもの”と厚生労働省は定義している。この誤った

行為を報告するのに用いられる書類がインシデントレポートと呼ばれるものである。当院のレポート報告件数は2020年に大幅に上がったが以降は減少傾向にある。インシデントレポートがどのような目的で何に利用されているのか理解し、個々の医療安全意識の向上に役立ててもらいたい。

見直そう！病院の財布

事務部長 中川 博文

【抄録より】

コロナで落ち込んでいた世界経済の回復とロシアによるウクライナ侵攻の長期化による化石燃料の高騰、加えて急激な円

安による輸入コストの上昇などにより、食品を始めとして様々な商品の値上げが続いています。

皆さんのご家庭でもこれらの値上げの影響による支出の増加があると思いますが、当院でも同様にいわゆる経費が増加しています。常に経費の削減は意識して業務されていることと思いますが、ではなぜ経費を削減する必要があるのかということを具体的に考えたことがあるでしょうか？

今回は、病院の収益構造と経費の削減(特に固定費の削減)が収益にどのように影響するのかという点、また、経費削減策を考える際に削減効果を大きくする発想法について説明したいと思います。



【抄録より】

最近の神経科学、特に睡眠分野の研究進歩により、幽霊や妖怪のような体験の発症機序がいくつか明らかになってきました。それは、(1)ナルコレプシーの入眠時幻覚(HyH)(図1)、(2)高速催眠現象または突発性レム睡眠症候群(SRS)、(3)純粋視覚幻覚(VH)、(4)レム睡眠行動異常症(RBD)もしくは非レム睡眠パラソムニア(NRP)です。このうち、3つは睡眠に関連して起こり、VHは必ずしも睡眠と関係なく発症します。これまで幽霊や妖怪譚は心理的問題や精神疾患との関連が指摘されることが多かったのですが、今回これらの幻覚について診断基準を作成し(表1)、信頼性の高い怪談をこの基準で分類してみました。(「日本怪談集」142話、「遠野物語: 遠野物語拾遺」41話)。この結果、信頼できる幽霊や妖怪譚の約3分の2がこの4種類の幻覚に分類されることが判明しました(表2)。この中でHyHは筋トーン低下を伴うレム睡眠関連幻覚であり、SRSは筋トーン低下を伴わないレム睡眠関連幻覚であると考えられました(図2)。また、夜中に怪物が現れるという話の一部は、RBDもしくはNRPによる可能性も考えられました。これらの結果から、信頼できる幽霊や妖怪譚の一部は、睡眠障害や神経変性疾患と同じ病態機序で引き起こされる可能性が示唆されました。



副院長

学術研修委員会委員長 玉元 徹

院内発表会は、コロナ禍になる前よりは若干少ない人数が集まりましたが、コロナ禍としてはかなり多くの職員が集まってくれたと思いました。これもひとえに古谷先生の御講演の内容が多くの人を惹きつけるものだった

おかげだと思っておりますので、古谷先生には本当に感謝しております。古谷先生のお話は非常にわかりやすく、一般の方が聞いても面白く聞いていただけるような調子でしたので、地域オープンセミナーが将来できるようになれば、古谷先生にも御講演をお願いできれば幸いに思います。

また、他の4人の職員のみなさんも、発表は慣れた方々ばかりで、安心して聞けるものばかりでした。

5病棟の坂本看護師の発表は、院長先生の比較的高度な質問にも臆することなくスムーズに答えているところは肝が据わっており将来が頼もしいと感じました。

臨床心理室の横山公認心理師の発表は、普段の仕事の内容を心理療法を中心にわかりやすく説明して下さって、とても有意義なものとなりました。日本の制度では精神科医が行える治療が物理的に限られていて、その代役を演じてもらえる臨床心理士の役割は非常に貴重なものですが、それがみなさんに伝わっていただいたのではないかとうれしく思います。

医療安全対策室の石谷看護師のインシデントレポートについての啓蒙活動的な内容は非常に重要なもので、当院の医療安全の質を高める元となる活動ですので、とても有意義な発表だったと思います。

4題目の中川事務部長の発表は、病院の経済的な問題を取り上げて、当院の職員全体に社会的にも重要な考え方を浸透させていただいたと思います。経済的なことを考えることが自分の給料の額に間接的に反映される可能性があるということを明確に示しており、職員の意識も少しは高まったのではないかと期待しております。

来年の開院記念院内発表会は、趣味や思想など学術的なこととは一見離れていることでも、将来当院の職員に役に立つ可能性がありますので、ご発表いただける方ができていただけるとありがたく思いました。



認知行動療法の導入について

精神科デイケアの新たな取り組み

精神科デイケア室

精神保健福祉士 正木 貴世

精神科デイケアでは今年2月より新たに認知行動療法のプログラムを開始しました。

横山公認心理師を講師として迎え、男女4名で構成されたメンバーで月2回のペースで行っています。

プログラム開始時には“緊張ほぐし”として朝ご飯を発表したり、ちょっとしたゲームなどを取り入れています。その後、横山公認心理師から認知行動療法に対する説明を受けた後、実際に“体験する”と言った形で“書く”作業に取り組んでいます。

終了後には毎回、“振り返り”としてプログラム開始前後のしんどさや不快さ、心地よさなどについてセルフモニタリングをしています。その後、横山公認心理師と一緒にその回の振り返りや次回の取り組みなどを検討しながら手探りで進めてきました。また参加メンバーの個別フォローとして、プログラムを通し

て見てきた各々の課題を元にデイケアでの担当スタッフも定期的に振り返りを行っています。

10回を一クールと考えており、現在のグループも終盤を迎えていますが、プログラム終了後も参加メンバーが課題に取り組んでいけるよう個別にフォローをして行く予定としています。

手探りで始めた認知行動療法ですが、プログラムとして継続していけるよう関わるスタッフも参加メンバーにとってよりよい支援となるよう勉強を重ねていきたいと思っています。

プログラムに興味がある方はぜひ、精神科デイケアまでお問い合わせ下さい。

※ 認知行動療法とはストレスの問題について、「認知」＝「ものの見方や、考え方」と「行動」に工夫を加え、少しずつ改善していこうとする取り組みのこと。

オンラインだよ！ 文化交流会2022に参加しました！

主催：高知県精神保健福祉協会

診療支援部リハビリテーション課 精神科デイケア室 作業療法士 西 洋平

コロナ禍で様々な院外イベントが中止になっておりましたが、高知県精神保健福祉協会の企画していただいたオンラインイベントの文化交流会に精神科デイケア利用者様の作品をYoutubeに掲載してもらいました。お披露目会として4月7日にセンターホールで上映会を行いました。お披露目会に参加した方は集中して作品を見ており、笑いながら音楽作品を聴くなど楽しそうにしていました。作品を掲載してもらった方は自分の作品が映像に流れると拍手をして

喜んでいました。参加した利用者様の中には“オンラインイベントもいいけど、やっぱり対面でしたい”との希望も聞かれており、院外イベント再開も待ち遠しい気持ちになりました。



コロナ禍を経ての精神科デイケアの活動

精神科デイケア室

精神保健福祉士 正木 貴世

精神科デイケアでは、コロナの感染状況を考慮しながら少しずつ屋外でのプログラムを再開しています。

4月14日には桂浜へ行き、買い物や散策など各々が楽しい時間を過ごしました。

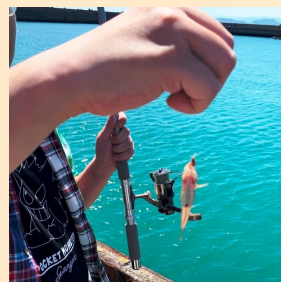
また、5月よりイオン高知でのショッピングが再開となりました。プログラムで新しくなったイオン高知へ行くのは約3年ぶりでしたが、大きなトラブルになる事もなく無事に帰院することができました。「〇〇をみたい」「〇〇が食べたい」「(イオンへ行くのは)〇年ぶり」等と出発前から楽しみにしている声も聞かれました。以前と比べ、店内が大きく変わっていたことや、広々とした店内を散策したことで疲れた表情を浮かべているメンバーさんもいましたが、楽しい時間を過ごす事ができたのではないのでしょうか。

他にも、花見や釣りなどの外出プログラムも少しずつですが再開しています。

今後は感染状況に考慮しながら他施設との交流や作品展への出展や地域のイベントへも参加していく予定です。



吾岡山にて



手結港にて魚釣り



新人集合研修会

2023.4.3(月)・4.4(火)

南国病院本館 会議室

事務部長 中川 博文

例年同様、今年も新人集合研修を行いました。新型コロナウイルス感染症の影響もあり、医療業界自体を志望する就職希望者が少なくなる中、新卒者1名を含む新規入職者を迎えたことは大変喜ばしいことと考えます。

例年であれば、看護部長による接遇研修なども行うのですが、看護部長交代の影響もあり、カリキュラムを見直し、開催日数を2日間に凝縮して実施しました。(接遇研修はeラーニングで実施予定)

私は、毎年以下のような研修を担当しています。

1. 病院の概要として、南国病院の組織、委員会等の説明
2. 医療機関に勤務する上で知っておくべき、医療機関を取り巻く環境、医療有資格者が置かれている状況や、職場の改善がなぜ必要なのかといった問題解決や課題解決の考え方
3. 個人情報保護や電子カルテ等の医療システムについて

1については、自院にどのような部署・機能があるのか、日々行っている様々な委員会が、一体どのような意味や役割があるのかということを入職時からきちんと理解してもらうことは、今

後、院内で業務を行うにあたって必ず意味があると考えています。

2については、新たな環境で頑張ろうと考えている職員さんに対して、さほど愉快ではない話(国は医療費を抑制する為、診療報酬は基本的にマイナス改定であるなど)を行うことに躊躇いはありますが、自分の職場をとりまく外部環境がどのようなものかを知り、考えることは重要なことです。また、日々の業務の中で「問題意識」を持つことの大切さ、問題を発見した際にどのように解決していくかといった問題解決や、ありがたい姿とのギャップである課題解決などについて説明しています。個人情報保護や、業務で使用する電子カルテ等の医療システムの研修の重要性は言わずもがなです。

長時間の研修を受けることはとても大変な事だと思います。しかし、数少ない同期と一緒に学ぶ良い時間でもありますので、こういった機会を大切にしたいと思います。

新人集合研修を受けて

5病棟看護師 和泉 可奈子

研修課題は南国病院の歴史や理念、地域での役割について、医療安全管理について、福利厚生と就業規則についての研修でした。

南国病院の成り立ちや理念、地域での役割については院長先生からの講義でした。講義の冒頭では、私たち新入職者を心より歓迎してくださいました。患者ファーストの精神、自己研鑽については自身の看護師としての課題でもあります。理念に沿った職員となれるように自覚を持って働いていきたいです。

医療安全研修では、他院や南国病院での過去の事例紹介とヒューマンエラーの12分類を基に、インシデント・アクシデントが生じやすい状況について学ぶことができました。他院で発生した医療事故には痛ましい事例もあり、身が引き締まる思いでした。また、12分類の中には自分にも当てはまる分類がいくつかありました。看護師は患者さんの命をお預かりする仕事です。命も守り、ヒューマンエラーを防ぐためには自分が苦手な分野を知り、先回りした対策を行う事が大切だという事が分かりました。疑問に感じたことは調べ、業務上の疑問点は先輩方に訊き、自己判断せずに落ち着いて仕事をしていきたいです。それが患者さんにとって、よりよい看護の提供に繋がると考えます。

福利厚生は充実しており、ワークライフバランスが考えられていました。制度を利用する際の注意点なども細かく教えていただき、長く安心して働くことができる職場だと感じました。



リハビリテーション課 言語聴覚療法室

言語聴覚士 小笠原 翔

新人集合研修会に参加し、南国病院の理念や方針について学ぶことができました。特に期待人材像である、患者ファーストで行動できる人材、相手の立場を尊重し、助け合うことができる人材といった人材像が印象に残りました。私自身南国病院の理念や方針、期待人材像の下、リハビリテーションという枠組みの中で貢献をしていきたいと思っています。

SNS等への注意についてもとても勉強になりました。私はLINEやInstagramといったSNSを使用しているため、使用する際は十分に気をつけたいと感じました。また患者様の緊急時の対応方法の実技講義はとても勉強になりました。言語聴覚士として摂食嚥下に携わるため、誤嚥による窒息などが起きる可能性は十分にあり、今回の新人集合研修会で学べたことはとてもいい経験になりました。AED等の使用方法も理解に乏しい状態だったためとても勉強になりました。この実技講義で学んだことを活かしていきたいと感じました。手指衛生についての講義も、手に残っている汚れをブルーライトで確認した際はとても驚きました。やはり爪や指の隙間といった普段あまり意識して洗っていない部分に汚れが多く残っており、このような洗い残しが感染に繋がるのだと実感しました。この経験から改めて訓練前、訓練後の手指衛生はとても大切だと思いました。今回の新人集合研修会は私にとってとても有意義な話ばかりでした。ありがとうございました。



新たなスタート

【 臨床検査室長の抱負 】

臨床検査室長 山崎 始子

この4月より臨床検査室長を拝命いたしました。小松前臨床検査室長にサポートしていただきながら、何とか業務を行っています。

オーダリングシステムが導入されてからは、検査結果を患者様に結果が早く返せるようになりましたし、精度管理の面からもデータ管理がしやすくなりました。

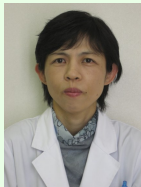
医師の増員により以前と比べて、院内・外注とも検査が増えました。これからは、院内で測定できる項目を少しずつ増やして対応していきたいと思っています。

検査結果を迅速・正確に出すのはもちろんですが、少しでも早く検査結果を出して、病気の発見や治療の手助けになればという思いで、日々業務を行っています。

他部署との連携や協力も得ながら、患者様がより快適に入院生活を送れるよう、また、職員がより働きやすい環境になるよう取り組んでいきたいと思っています。

皆さんの中で、疑問に思ったりした事があつたら、気軽に検査室に来て下さい。私たちもすぐ勉強になります。

まだまだ力不足ではありますが、精一杯努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。



【 通所リハビリテーション室長の抱負 】

通所リハビリテーション室長 池上 司

令和5年4月より通所リハビリテーション室長になりました池上と申します。南国病院に入職して16年。もっぱら病院勤務で入院患者さんを主体に携わってきましたが、17年目からは介護分野で在宅の利用者さんと接していくこととなりました。

介護保険制度開始当時に通所リハに関わったことはありましたが、あれから数十年…制度も予防介護ができたり以前とはかなりの変化があり戸惑う事ばかりです。更に利用者さんの顔と名前が一致せず、その都度他の職員に「えっと…〇〇さんは、どちらに…？」なんて聞いてみたり、右も左もわからず何から何まで聞きっぱなしでした。異動から2週間が過ぎ、当初よりは雰囲気にも馴染み、まだ全員ではないですが利用者さんの顔と名前も一致するようになってきました。

まだまだ自分らしさは十分発揮できておらず、もっと利用者さんの笑顔を引き出して笑いの絶えない通所リハをめざし、利用者さんとご家族の在宅生活の支えになれるよう頑張っていきたいと思っています。まだまだ未熟な身ですので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。

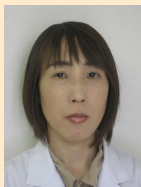


【 薬剤課長代行(薬剤課主任)の抱負 】

薬剤課長代行(薬剤課主任) 北川 亜紀

4月より薬剤課長代行(薬剤課主任)を拝命いたしました。主任としてスタートしたのが2年前ですが、周りのスタッフのサポートが大きく、支えられて今があると実感しております。

薬剤師法第一条に「薬剤師は、調剤、医薬品の供給その他薬事衛生をつかさどることによって、公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もって国民の健康な生活を確保するものとする。」と記されています。より良い薬物治療のため、調剤、監査のみではなく、服薬指導、処方提案などを積極的に行っていきたいと考えております。力不足でご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



【 栄養課長代行(栄養課主任)の抱負 】

栄養課長代行(栄養課主任) 安岡 友見

4月より栄養課長代行に就任いたしました。今、管理者としての大変さを実感しているところです。入職時に「世界一の給食を」と話があり、日本一とは？とずっと考えていますが、明確な答えが出ていません。

「ごちそうさまが、ききたくて」という栗原はるみさんの本があります。「ごちそうさま、おいしかった」患者様の声は本当に嬉しいものです。私は食事を楽しみにして下さっている患者様の生の声を調理師・調理員に聞いてほしいと嚥下回診に少しでも参加をと思っています。そこに新たな発見や提案があるかもしれません。口から食べる事を支援し、人生最後の食事が給食でも美味しかったと思っていただくことも日本一の給食のひとつと思っています。

また、「食」は「人を良くする」と書きます。給食、栄養指導など「食」を通してよりよい支援が出来るよう、より努力して参ります。そのためには皆さんの協力が必要です。どうぞよろしくお願い致します。



【 看護部長代行兼3病棟師長の抱負 】

看護部長代行兼3病棟師長 小松 匡輔

これまで精神科病棟で主任の立場として働いてきましたが、4月より看護部長代行兼3病棟師長を拝命しました。



神経難病という領域で病棟師長兼看護部長という責任重大な役目を担うことになり私自身大変身が引き締まる思いです。現在3病棟のスタッフには迷惑をおかけしておりますが、まずは病棟師長としての役割を果たしていきたいと思っています。神経難病について自己研鑽し、スタッフが言いたいことが言える雰囲気と働きやすい環境作りを考えていきたいと思っています。そして、南国病院の理念を念頭に置き神経難病の専門病院として地域に貢献し、ご家族が入院したいと思えるような病院にしていきたいと考えております。皆さんと一緒に築き上げていきたいと思っていますので、どうか力を貸して頂きたいと思います。

看護部長代行として時代の変化を取り入れ、皆様が働きやすい職場を第一に考えワークライフバランスも継続していきたいと思っています。まだまだ、未熟で至らないことも多くご迷惑をおかけすることもあるかと思いますが、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

いただき、南国病院の人間関係の良さ働きやすさを改めて痛感する1年となりました。外来・地域連携でも今までの経験を活かし、少しでも患者さんのために寄り添えたらと思っています。スマイル0円で頑張りますのでよろしくお願い致します。

【 看護師長の抱負 】

2病棟看護師長 山本 裕佳

4月から2病棟師長を拝命いたしました山本です。



まだ師長業務について不慣れな事もありご迷惑をお掛けすること多いかと思いますが、病棟師長として必要なマネジメント能力、問題解決能力、コミュニケーション能力を養い、看護の質を高めるために看護業務を行う環境、患者さんが安心して療養できる安全な環境を整えられるよう、病棟スタッフと協力しながら邁進していきたいと考えています。

今後もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

【 外来看護師長兼地域連携・医療相談室長の抱負 】

外来看護師長兼地域連携・医療相談室長 國本 美香

2022年6月、17年間勤務してきた精神科5病棟より特殊疾患3病棟に異動となり、2023年1月からは外来兼地域連携・医療相談室に出向となっております。正式に4月より外来兼地域連携・医療相談室に異動となりました、國本と申します。



昨年1年間は色々な意味で怒濤の1年間でした。私はこのままずっと精神科で勤務していくものと思っていましたが、まさかの異動。神経難病の患者さんと関わり身体が段々動かなくなっていく辛さ、その患者さんを支えるご家族の苦勞、そして患者さんを援助するスタッフの精神的身体的疲労、半年間という短い間でしたが、色々な事を考えさせられるとても貴重な体験をさせて頂きました。

そして異動後3ヶ月目に起きたコロナクラスターでは、病院内のスタッフに協力してもらいなんとか乗り切る事ができましたが、これまた今まで働いてきた中で一番大変な思いと経験をさせていただく事となりました。どの部署に異動しても快く迎えて

【 看護主任の抱負 】

2病棟看護主任 百田 波恵

4月より2病棟の主任職を拝命いたしました百田です。



私は10年ほど看護職を離れていましたが、ブランクがあっても働きやすい環境を提供してくださりここまで続けていくことができました。今回このような役割を仰せつかりまして、責任の重大さに身の引き締まる思いです。まだ就任してから1ヶ月程しか経っておらず、日々山本師長や岡本主任の力を借りて主任業務を必死に覚えているところです。これまでとの自分の立場の違いに戸惑いを感じ、果たしてこれで良いのだろうかと思案しながら仕事しています。主任としての役割や業務などまだまだ覚えることがたくさんありますが、少しずつ成長できるよう努力していきたいと思っています。

今後も師長や主任、スタッフの声を聞きながら協力し合い、みんなが働きやすい環境作りをし、患者ファーストをモットーに病棟全体で安心、安全で心ある看護が提供出来る様努力していきたいと思っています。

まだまだ力及ばぬ事が多いですが、これからご指導ご鞭撻の程よろしくおねがい致します。

3病棟看護主任 野村 美佐子

4月より3病棟の主任を拝命いたしました野村です。当院でお世話になってから6年目を迎えています。前師長に「スタッフがやりがいを感じ、患者さん、ご家族が安心して過せる病棟を目指しています。」とオリエンテーションを受けました。



初めての神経難病看護では患者さんの身体面や精神面、周囲の環境などさまざまな場面での気づきが大切だと感じました。自分の頭が、しっかりしている中で徐々に身体が動かせなくなり、食事や排泄、運動が出来なくなるのを受け入れるには周りのサポートが大切だと感じています。日々の業務に追われ、声かけが十分出来ていない事や、立ち止まって傾聴する時間をつくれしていないなど反省する事が多々あります。

今年度より、看護部長が新任され、新たな看護体制となりました。主任として、病棟のサブリーダーとしてスタッフとの緩衝の役割を果たせたらと思います。安全で質の高い看護を提供出来る様に自己研鑽に努めて行きたいと思えます。

5病棟看護主任 村上 真穂

4月より5病棟主任を拝命いたしました村上です。

他院での経験を経て、当院精神科に入職し6年目を迎えようとしています。

初めての分野に戸惑っていた頃がつい最近のように感じます。



まだまだ未熟者で、先輩管理職の方々のような仕事ができるのか不安に感じることもありますが、一日でも早くこの役にふさわしい存在となれるよう長所のコミュニケーション能力を活かし、スタッフ一人ひとりの声に耳を傾け、全員が働きやすいと思える環境作りをしていきたいです。

そして、スタッフが一丸となって患者様に安全・安心な入院環境を提供できるよう日々精進してまいります。

至らないこともあると思いますが、今後ともご指導・ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

【医療安全管理者の抱負】

医療安全管理者 看護師 石谷 豪

令和5年4月1日より前任者の退職より引き継ぎ、新たに医療安全管理者として就任しました看護師の石谷豪(いたにたけし)と申します。医療安全対策室にはちょうど新型コロナウイルスが流行する半年前程から勤務しております。対策室では病院内の感染対策をどのように行っていけばよいのか、入院患者様の療養生活にできるだけ負担がかからないようにするにはどうすればよいのか等を、前任者を中心に話し合っていたことが最近のようです。その時の自分は前任者に頼っていたため正直なところ少し安心していましたが、その頃とは違い今は身が引き締まる思いです。



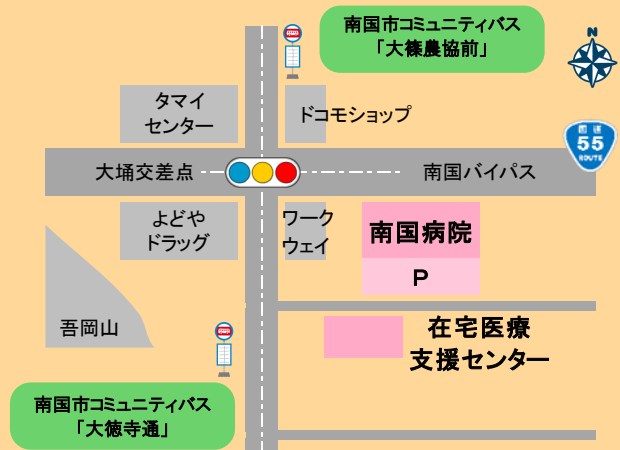
5月より様々な制限が緩和されコロナ制限前の生活に戻ろうとしています。入院患者様が安心して安全に入院生活が送れるように療養環境を整えることはもちろんのこと、個々の意見も大切に安全意識のさらなる向上を目標に努めていきたいと思えます。

至らない点が多くあると思いますが、皆さまよろしくお願い致します。



『季節の貼り絵』

医療安全対策室前には
患者さんに季節の移り変わりを
少しでも感じて頂けるよう
毎回素敵な作品を
看護師さんが手作りしています！

診療のご案内				ホームページもご覧ください http://www.nankoku-hp.or.jp/				
診療科目		◆脳神経内科		◆精神科		休日診療	なし（但し急患は診療いたします）	
		リハビリテーション科				予約診療	全科予約診療となっております	
		◆内 科		◆消化器内科		救急指定	なし	
		◆放 射 線 科						
診療時間		月～金	午前	8:30	～	12:30	健康診断	特定健診、胃がん検診(胃内視鏡検査)
			午後	1:30	～	5:00	面会時間	感染対策のため、予約制にて対面面会、リモート面会にて行っております
		土	午前	8:30	～	12:30		
診療科／曜日		月	火	水	木	金	土	
午前	脳神経内科	古 谷	中 澤	吉 村	中 澤	古 谷	中 澤	
	精神科	藤 田	石 田	玉 元	玉 元	上 村 ※3 (もの忘れ外来) 中 村	中 澤	
	消化器内科 内科	速 瀬	速 瀬	麻 植 (啓)	速 瀬	速 瀬 麻 植 (啓)	速 瀬 ※1 麻 植 (啓) ※2	
午後	脳神経内科	古 島	古 島	吉 村 ※4 古 島 ※5	古 島			
	精神科	玉 元 赤 松	玉 元	石 田		石 田		
	消化器内科 内科	速 瀬	麻 植 (淳)	麻 植 (啓) 麻 植 (淳) (禁煙外来あり)	麻 植 (淳)	速 瀬 大 西		
備考	※1 速瀬医師の土曜日の診察は、第1・第3・第5土曜日です。 ※2 麻植(啓)医師の土曜日の診察は、第2・第4土曜日です。 ※3 上村医師(もの忘れ外来)の診察は、第2・第4金曜日です。 ※4 吉村医師の水曜日午後の診察は、第2・第4水曜日です。 ※5 古島医師の水曜日午後の診察は、第1・第3・第5水曜日です。						■認定・指定 日本神経学会准教育施設 日本精神神経学会精神科研修施設 日本老年精神医学会認定施設 高知県神経難病医療ネットワーク基幹協力病院 日本静脈経腸栄養学会NST稼働施設	
理念 南国病院	1. 安全で質の高い医療によって地域に貢献します。 2. 信頼関係に基づき暖かい医療を提供します。 3. 専門性を追求し自己研鑽に努めます。						■病床数 162床 46床 2病棟 特殊疾患病棟(Ⅰ) 56床 3病棟 特殊疾患病棟(Ⅰ) 60床 5病棟 精神一般病棟(15対1)	
基本方針	1. 病院が地域の社会資源であるとの認識に立ち、本院の専門性を通して、地域の医療と福祉に貢献します。 2. 本院は、脳と神経及び精神の疾病や障害を主な診療対象として、その神経学的、精神医学的診断、治療と臨床的研究に努めます。 3. 個々の患者とその家族への十分な説明とそれに基づく納得の上での同意を前提として診療を行います。 4. 本院での医療行為は、科学的根拠に基づき、自由で暖かい生命倫理に立って行います。医療環境が常に清潔で、明るく保たれる様努力します。 5. 本院の職員は、常に自己の資質と医療技術の向上に努め、病める人たちへの奉仕者としての自覚を持ちます。						■診療実績 2022年度 外来患者数 26,996 名 (内新患者) 939 名 1日平均入院患者数 146.4 名 精神科デイケア利用者総数 5,016 名 通所リハビリテーション利用総日数 4,431 名 訪問看護ステーションおおそね訪問延人数 6,631 名	
発行元/医療法人つくし会 南国病院 発行責任者/中澤 宏之(院長)								
〒783-0004 高知県南国市大堀甲1479番地3								
電 話 (088) 864 - 3137 (代表) F A X (088) 863 - 3070 (088) 802 - 8618 (地域連携・医療相談室)								